

順位	配信日	大学名	所在地	タイトル
1	7/3	中部大学	愛知	極めて高い殺虫力を備えた昆虫病原性線虫を応用生物学部の長谷川浩一教授らが発見。
2	6/26	東洋大学	東京	2026年度中の稼働に向け、学校法人東洋大学の財務会計システムを「Oracle Cloud ERP」で刷新。AIが組み込まれた最新のテクノロジーで、データに基づく経営判断や財務運営を目指す。
3	6/30	藍野大学	大阪	山本嘉人副理事長を新理事長に選任。任期は6月30日から29年度定時評議員会終結まで。
4	6/27	東京都市大学	東京	8~9月に工学院大、芝浦工業大、東京電機大と「東京理工系4大学(四工大)合同説明会」を開催。
5	6/26	昭和医科大学	東京	日本人労働者の約3人に1人が、健康問題により仕事の生産性が低下している実態が判明。最大要因である腰痛による生産性損失は、1000人あたり年間約6500万円にのぼると試算。
6	6/26	北星学園大学	北海道	26年4月に「国際学部グローバル・イノベーション学科」を設置、4学部8学科体制に。テーマを持った留学やプロジェクト型演習などでグローバル・リーダーを養成。
7	7/4	昭和医科大学	東京	企業との共同研究のマッチングなどを目的に、横浜銀行に産学官金連携コーディネーターを委嘱。
8	7/1	麻布大学	神奈川	トドがヒトの動作を「模倣」する能力を持つことを世界で初めて明らかに。
9	7/4	東京都市大学	東京	阿見寺俊哉選手(理工2年)が「第40回全日本学生選手権 個人ロードレース大会」で初優勝。
10	7/1	武蔵大学	東京	27年度から新カリキュラムがスタート。データサイエンス系の新たな専攻やコース等が誕生。
11	7/7	甲南女子大学	兵庫	「社会学部」と「教育学部」の文部科学省への設置届出が受理。26年4月から7学部10学科編成に。
12	7/8	白百合女子大学	東京	26年度入学者選抜から基礎力テストを行う「自己推薦入試(1期)」を新たに設置。
13	6/23	昭和医科大学	東京	左右の腎臓が互いに機能のバランスを調節するメカニズムを同大らの共同研究グループが解明。
14	6/24	大阪電気通信大学	大阪	ドン・キホーテの無人小型店舗「キャンパスドンキ」の実証実験に協力し、7月1日に第1号店が寝屋川キャンパスにグランドオープン。多くの学生の利用に対する効率化や学生向け商品開発の検証などに活用。大学公式アプリ「OIDAIアプリ」に新機能「マイカルテ」を搭載。大学の統合データベース上に蓄積された学修状況や成績などをモバイル端末上で日常的に確認できるように。
15	6/24	追手門学院大学	大阪	人工甘味料が腸炎を悪化させる仕組みを同大らの研究グループが解明。
16	7/8	北里大学	神奈川	27年4月、経済学部の4学科を「経済学科」と「社会経済学科」(名称はいずれも仮称)の2学科に再編予定(設置構想中)。「中大経済のシンカが未来を動かす」をキーメッセージに、特設サイトを開設。
17	7/11	中央大学	東京	朝日新聞に1月掲載の見聞記30段広告「主役ひとり、ひとり。」が朝日広告賞「朝日新聞特別賞」を受賞。
18	7/12	日本大学	東京	DX推進人材の育成を目指す実践的な課外プログラム「DXフロンティア育成プログラム」を開設。
19	7/7	駒澤大学	東京	「教育メディアクリエーション学環」の設置届出が受理。26年4月から3学部1学環体制へ。
20	6/30	鎌倉女子大学	神奈川	27年4月、人文学部の2学科を統合し「感性メディア学科(仮称)」の設置を構想中。
21	7/1	福岡学院大学	福岡	心理学に関する探究活動に取り組む高校生を対象に、7~9月と26年3月開催のオープンキャンパスで心理学部が「探究活動個別相談会」を初開催。幅広い心理学分野の教員がサポート。
22	7/9	甲南女子大学	兵庫	アート・ドキュメンタリー映画「EXPO'70 前衛の記憶〜アコを探して」を7月に大阪・関西万博会場で上映。
23	7/4	甲南大学	兵庫	同大「革新技術と社会共創研究所」と共同研究し、開発した富士通Japanのクラウド型「Fujitsu AI探索サービス」を大学図書館として初導入。キーワードが不明でも、日常的な言葉などからAIが「図書を検索できること」ができる。学校環境について考察。
24	7/1	青山学院大学	東京	26年4月、社会をリ・デザインする「社会デザイン学環」と、情報をストーリーとして発信する「文化情報学環」の設置を構想中。少人数教育とプロジェクト学習(PBL)で課題解決に取り組む。
25	7/8	日本獣医生命科学大学	東京	同大「父母の会」が在学生の食生活をサポートする恒例行事として、6月23~27日にカレーライス総計1500食を無料配布。同会に学生が感謝を伝える企画「#たちばなthanks2025」を同時開催。
26	7/3	東京家政大学	東京	企業や自治体、地域などのウェルビーイングに関する悩みを学生と解決する同大の課外プログラム「実践ウェルビーイングプロジェクト」を主軸の友社と推進。産学連携で参加企業を募る。
27	6/23	京都橋大学	京都	空港キャンパスに新学生寮が完成。将来航空業界に携わるパイロットや整備士の候補生らが入居。
28	7/2	実践女子大学	東京	同大初の理系学部となる「共創情報科学部」と、「地域経営学部」の設置届出が受理され、26年4月から社会福祉学部と合わせて3学部体制に。学部開設に向け、中核研究拠点となる新棟を建設中。
29	6/24	崇城大学	熊本	
30	7/4	長野大学	長野	

※タイトルは一部編集しています。詳細は「大学プレスセンター」のホームページ (<https://www.u-presscenter.jp/>) をご覧ください。

# 大学

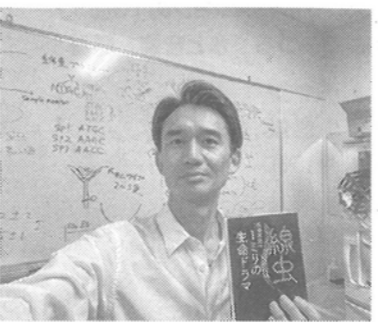
## プレスセンター

### ニュースダイジェスト

Vol.208

## 生物が拓く未来の「応用知」 生態の解明から技術創出へ

細菌から動物まで、生物は驚くほど多様で独自の生存戦略を備えている。そのメカニズムは、人類にとっても環境問題など未来の技術をはじめ、発達心理学や認知能力の研究、医療分野への応用など、さまざまなヒントに満ちている。



著書『線虫 1ミリの生命ドラマ』を手にする中部大・長谷川浩一教授

中部大(愛知県春日井市)応用生物学部環境生物科学科の長谷川浩一教授と博士後期課程1年の杉山

大崎さんは、岐阜県恵那市の土壌から、「スタイナーネマ・モンテイコラム」という種に属する極めて高い殺虫能力を備えた昆虫病原性線虫を発見した。この線虫は、既に高殺虫力で知られる他の種を上回り、マイマイガやチャバネゴキブリ、ジョロウグモなど63種の節足動物に効果を示すことが確認された。また、この線虫は多種の昆虫病原性細菌と共生しており、共生する細菌の組み合わせによって殺虫力が増強することも明らかにした(1位)。

今日の世界人口は約82億人で、2050年には100億人を突破すると予測される。食糧問題が懸念される中、世界の農作物の40%は害虫被害により収穫できなくなっているといわれ、化学農薬に代わる環境に配慮した害虫駆除法の

開発が期待されている。長谷川教授は「生物の力を利用して害虫を駆除する生物農薬のニーズはますます高くなっていく。今回の研究成果は、世界中のさまざまな気候や環境で発生する病害虫に対応できる、プログラム可能な生物農薬の開発につながる」と話す。

麻布大(相模原市)獣医学部動物応用科学科伴動物学研究室の今野晃嗣講師と、城崎マリノワールド(兵庫県豊岡市)の佐々木雅大氏、木下日波乃氏の共同研究グループは、飼育下のトド「ハマ」がヒトの動作を模倣する能力を持つことを世界で初めて明らかにした(8位)。

研究では「Do as I do(まねして)トレーニング」と呼ばれる教育手法を用い、飼育員の行動をまねる訓練を実施。ハマはこのルーを素早く理解し、過去に教えたことのない2種類の動作まで模倣できる能力が確認された。また、「Go」という音声指示の後に模倣を成功させ、飼育員が見えない状況で指示を与えても模倣行動が維

持されることを確認。これらの模倣が飼育員の無意識な合図(クレバー・ハンス効果)によるものでなく、ハマ自身の認知判断に基づいていることが実証された。

動物が他個体を観察してさまざまな事象を学ぶことを社会的学習といい、集団で暮らす動物の生存と繁殖には欠かせない能力とされる。同種ではなく、異種であるヒトの動作を模倣する能力はチンパンジーやイヌ、ネコ、シャチ、ベルーガなど一部の動物でしか報告されていたが、今回の成果はトドを含む齧齶類でもこの能力があることを初めて示した。

一方、北里大(東京都港区)薬学部微生物学教室の金倫基教授(研究当時・慶應義塾大薬学部教授)と慶應義塾大(同)の研究グループは、人工甘味料として広く使われている糖アルコール「ソルビトール」が、大腸の炎症を悪化させる仕組みを解明した(16位)。

発酵性のオリゴ糖やポリオールなどの総称であるFODMAPは小腸で吸収されにくく、大腸まで到達することで過敏性腸症候群

(IBS)や炎症性腸疾患(IBD)の症状を悪化させる可能性が指摘されている。しかし、ソルビトールそのものが腸内で炎症を誘導しているのか、またその際に腸内細菌叢や免疫細胞がどのように関与しているのかについてはこれまで明らかになっていなかった。

研究グループは、ソルビトールをマウスに摂取させた実験を通じて、ポリオールが腸内細菌叢の構成や代謝、免疫応答に影響を及ぼし、腸の炎症を悪化させる新たな仕組みを解明。低FODMAP食がIBDの急性期における症状緩和に寄与する可能性が示唆された。一方で、FODMAPの中には腸炎の抑制に関与する糖類も報告されており、水溶性食物繊維など腸内に有益な糖類の摂取も考慮することが重要だという。

研究では腸内細菌と代謝物、免疫細胞の連関に着目した新たな炎症制御の視点を提供しており、個別化栄養療法やマイクロバイオームを標的とした治療戦略の発展への貢献が期待される。

大学通信・玉木栄一、上道敬子